NEWSLETTER

Physical History No.8

- 近世日本の日記あるいは日 誌から地域情報の体系を探 る試みをしています。
- ・今回は、近世金比羅の「金 光院日帳」から、天保9年 (1838)4月11日の 記載より、金山寺町での 火事での消失の様子、「御 用留」からは茶屋(遊本 宿)であった尼ヶ崎藩、弘 4年(1847)12月1 9日の記載、さらに「多聞 院日記抜書」からは明和3 年(1766)1月8日の 記載が紹介されています。
- ・金比羅門前町で最も遊女宿を抱えた町、金山寺町は、 近世後期に2度の大火 災に見舞われました。 二つの記録を比較する ことで、金山寺町の 遊女宿の変遷を知 ることができる ます。

なお無断転用は お断りします。

村山 聡



Physical History Research Project (PHRP) Rocky Mountains, Colorado, USA, October 04, 2007

史料紹介

近世金比羅関係史料の紹介~「金光院日帳」ほか

香川大学教育学部遠隔教育調査研究室 林 恵

はじめに

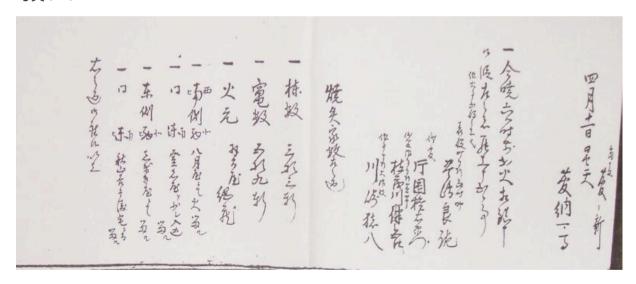
今回は、1999年に提出した香川大学大学院修士論文『近世以降にみる讃岐国の「遊郭」一金比羅・善通寺を中心に一』(*1)の中で出会った近世金比羅関係史料について、いくつか紹介したいと思います。

史料を紹介する前に、近世金比 羅の支配機構について、若干の説明 をしておきます。 院・神護院・尊勝院の五か院が置かれていました。そしてこれらの寺中とは違って、町方の支配を担当したのが「多聞院」でした。多聞院は「寺中」に対して「表役」と呼ばれ、この多聞院のもとに町方役人として町年寄・組頭などが置かれていました。なお、寺中・表役が詰めていたところが金光院役所で、そのおおよその命令系統は、別当―表役ー御用人―町奉行・代官―手代となっていたようです。

「金光院日帳」

私が使用した中心史料の一つに「金光院日帳」(2)があります。これは、御用人の勤務所である御用所の政務日誌です。宝永5年(1708)に始まり、同7年(1710)に正式に命令が出されて書き継がれた用人部屋日記のようなものです。1年1冊の大福帳形式からなり、75冊が金刀比羅宮図書館に保存されています。(写真1-1、1-2参

写真] -]



慶安元年(1684)、三代将 軍家光により朱印状が下賜され、金 比羅は330石の御朱印地となりま す。高松藩寺社奉行の指図を受けて いたとはいえ、その支配を実際に 行ったのは別当金光院という組織で した。金光院のもとには、「寺中」 と呼ばれる真光院・万福院・普門

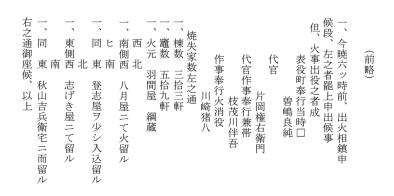
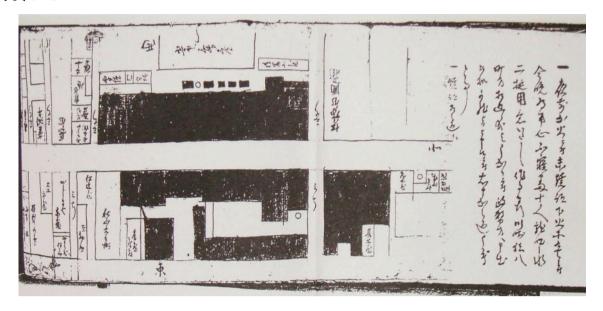


写真1-2



(図略

焼跡左之通

候処、可然旨被申候ニ付、右申出之通申付町方相廻り哉与申出候ニ付、政務方へ申出ニ挺用意いたし、作事奉行川嶋猪八字晩為用心、不寝番十人就咄し水へ、夜前出火ニ付、未焼跡下火等有之候ニ付

照)写真1-1・1-2は、共に「金 光院日帳」天保9年(1838)4 月11日条によるものです。この日 は、明け方から金山寺町にて大火事 がありました。その焼失の様子が記 されています。

先にも触れたように、近世金比 羅の支配構造は特殊で、実際支配を 行った別当金光院は、単に山内を治 めていたのではなく、御朱印地の町 方(門前町)・地方の領主的支配者 でもあったことから、この用人の 日々の記録は、寺中の外(門前町や地方)の様相までことこまかに書かれています。「金光院日帳」が書かれていく時期が、ちょうど金比羅信仰が全国的に広がっていく時代と重なっていることもあって、金比羅を軸として、讃岐国内のみならず、大坂・京・江戸の世相を伝える貴重な資料となっています。 昭和63年(1988)に、金刀比羅宮所蔵資料を整理した資料集『金比羅庶民信仰資料集年表篇』(3)が発行されますが、その中で編者山崎禅雄氏は

編集後記で次のように記していま す。

「編者がはじめて「金光院日帳」75冊を図書館でみせてもらったとき、この資料があまりにも世間の目に触れられていないこと、また学問的分野でも本格的にこの資料にとりくんで金比羅信仰を考察し、さらに朱印地をもった大寺社のありようを、歴史的にも社会・経済的にも論じられていないことは、いかにも残念に思った。」

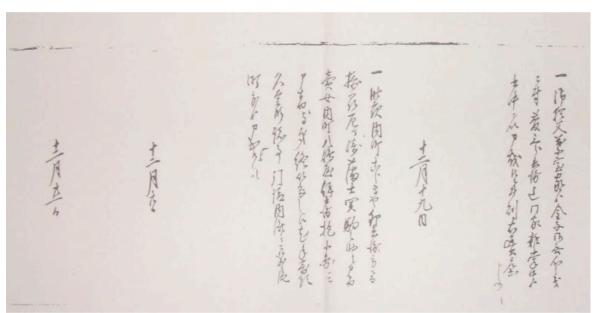
この文章を読んで、9年前「金 光院日帳」を閲覧するために金刀比 羅宮図書館へ通った日々のことを思 い出しました。金刀比羅宮図書館 は、参道の外れにあるのですが、 ちょうど訪れた頃が春らんまんの桜 の季節で、とても幻想的な美しい場 所に図書館はひっそりとたたずんで いました。何日か通ったのですが、 図書館を訪れる人は私以外一人も見 かけたことがなく、とても静かだっ たのを覚えています。

「金光院日帳」の散逸

宝永5年から書き始められた 「金光院日帳」ですが、残念なこと に宝暦から寛政にかけての約40年分 が散逸しています。そのきっかけ は、明治元年(1868)の神仏分 離令にあったようです。

先の『金比羅庶民信仰資料集年 表篇』によると、「明治元年、神仏 分離令が出され金比羅大権現が金刀 比羅宮と改められ、別当客常が復飾 して琴陵宥常になると、寺中の僧侶でも退身する者、還俗して神職になる者があり、多くの堂舎が神祠に建て替えられるという風に次々と改革が行われた。そして明治5年(1872)7月には仏像・仏画・経典・武具の類を売却などの処分に付したとき、「金光院日帳」も町のむつ屋磯七に払い下げられた。九月になってすぐ「外部へ流れては差支えのこともあり、神社になっても必要な場合もできてくるだろうから」という

写真2



(後

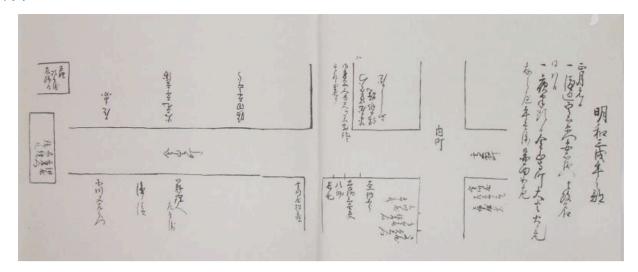
略

(弘化四年)

十二月十九

前略

写真3



ことで買い戻したが、 そのときすでに半数は 失われていた様子であ る」とあり、この時多 くの「金光院日帳」が 散逸していった経緯が 記されています。

なら屋平兵衛図面如左 一、夜半頃より金山寺大火ノ元 三戌年之部 · 安右衛門与改名

図

略

その他の資料につ

いて

修士論文で使用した史料につい 「金光院日帳」の他に「御用 留」(*4) があります。御用人の勤 める御用所の政務日誌が前者である のに対して、表役の勤める表役所の 政務日誌が「御用留」にあたりま す。この「御用留」は9冊あり、こ ちらも金刀比羅宮図書館で閲覧可能 です。 (写真2参照)

写真2は、「御用留」弘化2・3・ 4年(1845~1847)分冊の 3に掲載されているものです。日誌 形式で記載がなされ、弘化4年(1) 847) の12月19日の条には、 茶屋(遊女宿)にて起こった尼ヶ崎 藩士と遊女小円との心中事件につい -1・1-2 (「金光院日帳」)と比 ての記載が見られます。

この他に、金光院家来の山下盛 好が、元禄から寛政までと天保年間 の「多聞院日記」を書写した「多聞 院日記抜書」(*5/写真3参照)で は、明和3年(1766)正月8 日条に大火事の記録が残されていま す。

金比羅門前町で最も遊女宿を抱 えた町である金山寺町は、近世期後 半2度の大火にみまわれています。 明和の大火事の記録と、この後の天 保9年(1838) に発生したもう 一度大火事の記録である先の写真 1

較することによって、金山寺町の遊 女宿の変遷をうかがい知ることが可 能となりました

一、渡辺宇右衛門、正月元日

そしてこれらの史料を明治期に なって編集し直したものとして「金 刀比羅宮史料」(6)が90冊残さ れています。

おわりに

私自身なぜこの金比羅に注目し たのかというと、県内の他地域にく らべて圧倒的に史料数が豊富であっ たこと、継続的な史料群が残されて いたことにあります。修士論文の

テーマの一つが「讃岐国の遊女の実態」でしたが、先の「日帳」や「御用留」、日記や古記録などに記された触達、法度、町方に起きた火事や心中事件などを拾い集めることで、全国的な金比羅信仰の高まりとともに盛り上がりをみせた金比羅の遊女の実態を少しずつ明らかにすることが可能となりました。

この近世金比羅における遊女の 実態については、最近の研究成果も 加えた形で、また別の機会にご報告 できればと思っています。

注釈

- (1) 修士論文の中から近世金比 羅の遊女を中心に加筆修正し たものを、「近世金比羅の遊 女」として『香川史学』第28 号(2001.7/香川史学会)に掲 載しています。
- (2) 金刀比羅宮社務所蔵。宝永 5年~最終年未確認。
- (3) 『金比羅庶民信仰資料集年 表篇』(山崎禅雄編/1988/金刀 比羅宮社務所発行)
- (4) 金刀比羅宮社務所蔵。
- (5) 丸亀市山下榮氏蔵。
- (6) 論文作成時は琴平町川原正 夫氏蔵のコピーを参照。

編集後記

JULY 24, 2008

このニュースレター第8号は、再び、香川大学教育学部遠隔教育調査研究室で、主に近世古文書について仕事をして頂いている林さんに執筆して頂きました。

連絡先:村山 聡香川県高松市幸町1-1香川大学教育学部tel/fax: 087-832-1571(office)Email:muras@ed.kagawa-u.ac.jpHomepage:http://rfweb.ed.kagawa-u.ac.jp/project/wiki/muras/

wiki.cgi